



つばめ通信

第017号

令和元年5月1日

特定非営利活動法人

NPO成年後見湘南

平塚市代官町16-37

平塚チェリーマンション102号

発行責任者：成瀬富子

平成30年度活動報告

平成から令和に年号が変わり、平成12年にスタートした成年後見制度も大きな転換期を迎えています。最高裁判所は不透明であった後見報酬の見直しと、後見人には「身近な親族が望ましい」との考えを表明し、各地の家庭裁判所に通知を出しました。今後最高裁の考え方に沿った見直しが各家裁で検討されていくと思われれます。

裁判所から後見人に選任される法人がまだまだ少ない中、NPO成年後見湘南はこれまでに裁判所から32人の方の後見人に選任されてきました。当法人の身上保護を重視した後見活動と、考え得る限りのセキュリティで管理されている財産管理が裁判所に高く評価されている結果だと自負しております。

障がい者の後見期間は長くなり、受任から14年目に入った方が3人もいらっしゃいます。16人の方には既に親御さんがいらっしゃいません。親亡き後も今までと変わらず安心して楽しい生活を続けて頂けるよう法人のメンバー全員で見守っています。平成30年度は新規に2名の方の後見人に選任され受任件数は累計で32件となりましたが、残念ながらお亡くなりになった方もいらっしゃるため現在は26名の方の後見業務を20名のメンバーで行っております。

この長い後見期間を支えるには法人の継続性が何よりの課題となります。設立から16年が経ち世代交代の時期を迎えていますが、嬉しいことに昨年度の4名に引き続き、平成30年度も3名の方が新しくメンバーに加わって下さいました。菅野さん、武田さん、松澤さんの3名です。3人ともボランティアや仕事として、また親として障がいのある方に関わりを持ってこられました。頼もしい仲間がまた増えました。よろしくお祈り致します。設立メンバーやベテランもまだまだまだ現役で頑張っていますが、毎年新しい仲間が増え、順調に少しずつ世代交代が進んでいます。法人後見の継続性を維持しながら法人の活動は17年目に入りました。

後見活動以外には、一般市民向けに講演会を開催いたしました。タイトル「親亡き後を考える」

の第2弾として又村あおい氏にご講演頂きました。たくさんの方においで頂き大変好評でしたので、今年度も12月7日に再度又村氏にご講演をお願い致しました。「親亡き後を考える」第3弾として、今回はテーマを絞ってお話しして頂く予定です。後日ご案内をさせていただきます。また、相談業務、内部研修、講師依頼への対応、行政や外部団体等への参加・協力にも努めてまいりました。

これからも身上保護を第一に、ご本人に寄り添い、ご本人の意思を尊重し、丁寧な後見業務を行って参ります。皆様には変わらぬご支援の程よろしくお祈り致します。

(代表理事 成瀬富子)

総会と講演会のお知らせ

☆総会

日時：2019年5月27日(月)

10時30分～12時

場所：ひらつか崇善公民館2階*

会議室A・B

平塚市見付町1-8 (JR平塚駅西口徒歩8分)

電話 0463-21-7517

*：平塚市八重咲町のJAビルから西口に
移転になりました

☆講演会の予告

日時：2019年12月7日(土)

10時00分～12時00分

場所：未定

講師：又村あおい氏

「親亡き後を考える」テーマを絞ってお話ししていただきます(詳細は後日お知らせする予定)



詳細は後日
お知らせし
ます!!

後見担当者の活動紹介

● 清宮さんのケース

私が担当しているのは F 市にある S 施設に若い時から入所している 50 代の女性です

聞き取りにくいですが、お話はできます。普段は穏やかに過ごしています。

面会に行った時の様子ですが、当初はビーズ通しの作業中等に面会しましたが、本人の機嫌が悪く、大声や奇声を発したり、ものにあたったりしており、本人の気に入らない時間帯だったと思われる。そこで、食事後の自分の部屋でリラックスしてテレビを観ている時間に変えました。

面会時には、「〇さん こんにちは」支援員さんと一緒に部屋に入ります。顔をみて、健康状態や、部屋の中をみます。備品の状態も破損がないかを確認します。

朝ドラの再放送のテレビを観ながら、「半分あおい」すずめ・りつ君……。内容は理解していない様子ですが、大好きだったようです。

昼食の話では、「今日は何を食べたの?」「全部食べたの?」。服装についても「どこで買ったの?」「きれいだね!」とか……。

パズルが大好きでミッキーのパズルをプレゼントしました。大変喜んでいて、支援員さんや、他の利用者さんにも見せていました。

テレビ視聴が終わると、2 階へ洗濯物を取りに行きます。足腰の様子を観察しながら、ゆっくりと行きます。

本人との面談後には、支援員さんに前回からの様子を伺います。体調の変化や、月 1 回の実家への帰宅時の様子。行事やイベント参加の写真などを見せていただきます。

昨年 12 月に F 市民会館ホールでのクリスマス会と一緒に参加しました。

施設利用者、職員、保護者、後見人など 100 人近くが参加。司会進行で歌や合奏、ゲーム、プレゼント等々盛況でした。いつもと違う環境なので、食べ物の好き嫌いや、支援員さんとの関係など違った様子を見ることができました。ビュッフェスタイルの食事だったので、自分の好きなものばかり食べていました。

いろいろと、感じる事が沢山ありますが、これからも、ご本人に寄り添って後見活動に取り組んでいきたいと思ひます。



● 荏原さんのケース

私が担当している方は、施設に入所されている 60 代の女性です。知的障がいがあり、幼いころから入所しており、面会に来てくれる身内はいません。短い言葉での会話はできます。食べる事が大好きで、最近ではアイスコーヒーがお気に入りです。施設では、毎日歩行訓練を頑張っています。

財産管理の活動は、施設への生活費の送金、金銭出納帳の確認、施設と一緒にご本人の用途計画を立てる等があります。最近では洋服が欲しい、羽根布団が欲しい、ぬいぐるみが欲しい、お出かけしたい等の要望にも対応しています。

ご本人との施設での面会は年に 6 回行います。施設からご本人の様子を聞き、ご本人からは生活の様子や、何をしたいかなどの希望を聞いています。面会時は、ご本人の好きなことを一緒に楽しむことにしているので、塗り絵やお絵かき、今度は「ネイル」にチャレンジしようかと約束しています。

先日、ららぽーと平塚への、買い物・外食に同行しました。ご本人、施設担当者、後見担当者(私)の女性 3 人で出掛け、行きのタクシーの中からおしゃべりをして盛り上がりました。買い物をした後に、昼食を食べました。外食は大好きなとんかつ定食で、ごはんのおかわりが定番です。「おいしいね!」と満足されていました。スタバにも行きました。普段は缶コーヒーを飲んでいるので、最初はカップのアイスコーヒーに戸惑いを見せていましたが、次第に慣れてきて、「おいしいね!」と堪能しました。「また行く!」「また行こうね!」と次の外出の約束をしました。

これからの後見活動も、一緒に楽しみ、交流を深めることを心掛けて、ご本人の意思を感じ取り、何かほんの少しでもお役に立てるような活動をしてきたいと思ひます。



おいしいね! 大好き!



新活動メンバーだより

新しい4名の皆さんをご紹介します

● 杉山 須美子さん

昨年より会計業務を担当させていただくようになりました杉山です。

引き受けたものの、おぼつかない頭で皆様にはご迷惑をおかけしております。

私は夫と二人暮らしで近くに娘夫婦がおります。その孫が小学1年生で障がいがあります。

それ故後見活動には興味がありました。

NPO 成年後見湘南との出会いは、広報紙に掲載された代表成瀬富子さんの記事を読み強く惹かれたことです。

その後、お誘いいただいて勉強会に参加させていただき何の知識もないままお仲間に入らせて頂きました。図々しくも後見担当者として活動させて頂いておりますが、メンバーの皆さんのような資格もなく、根幹となる勉強もしていないため出くわすことは初めての事ばかりで、まだまだ被後見人の方にもメンバーの皆さんにも何の役にも立っておりません。これから時間をかけて少しずつの歩みですが成長していきたいと思っています。

おこがましいですが、目指す姿勢は「被後見人の方と同じ傘に入り、少しでもご本人の意思を汲むお手伝いをする事」です。

先入観を持たず、ありのまま一緒に歩みたいと願っています。

最後に私はこんなことを思っています。孫には障がいがあるため親（娘夫婦）は少し子育てが大変かもしれませんが、でも彼女の存在は確実に親を含め周りの人たちをどんどん優しくしていると感じます。

被後見人の方々の存在も周りを温かくしています、私も施設に伺うたびに心が温まり優しい気持ちをもたらします、胸をはって歩んでほしいです。それを少しでも見守ることができたらと思っています。

後見担当者としての責務を全うできるように、たくさんのおアドバイスをいただきたく、皆さんどうぞ宜しくお願い致します



● 山崎 章生さん

会員となって2年になりました

NPO 成年後見湘南との出会いは、2年前の平塚市民活動センターで行われたボランティア祭りでした。退職後はボランティアを始めたいと思っていたので、各団体のブースを回っていたところ「成年後見」という文字が目にとまり、家裁に勤務していた経験があるので、少しはお役に立てるかと思い入会を決めました。最初の1年は定例会に出て組織や活動の説明を受けたり、他の会員の方々の活動報告を聴いたり、外部研修に参加したりの学習期間。2年目が近づくと先輩に同行して施設に伺い、被後見人の方との面会の様子を見学させて頂き、いよいよ実践が始まりました。

最初に担当した被後見人はKさん。顔を覚えてもらうことから始めました。半年ほどスーパーバイザーの指導を受け、どうにかこうにか立ちました。今はKさんから先に握手を求めてくるまでになり、最近はSさんも担当することになりました。お役にたてるのはまさにこれからだと思っています。

成年後見湘南は専門知識を持つ会員が多く集まっています、組織もしっかりとしています。財政基盤も充実できています。だから後見を担うNPOとして信頼を得ているのだと思います。私としても個人として後見人になるのは荷が重くて二の足を踏んだと思いますが、NPO 法人が後見人だからこそ指導や助言を受けながらKさん、Sさんに会いに行けるのです。

最後に自己PR。“やまさき”と呼んでください。姫路より西では濁りません。最後の清流四万十川沿いの日本で2番目に暑い高知県四万十市の出身です。趣味は旅に関する事一切(乗り鉄です)、スポーツ吹き矢、パークゴルフ等々。よろしくお願いたします。



● 小倉 淳一さん

私がNPO 成年後見湘南に参加させてもらった経緯は以下のとおりです。

家には障がい者（自閉症）の娘がいます。6才より施設で共同生活を送っています。年に何回かは帰宅して、生気を付け施設に帰っています。

14年間は児童施設で、その後現在まで16年間は成人施設で生活しています。

私達も70才前後となり、親が動けなくなった後の娘のことが気になりだし、施設入所者の親も同様の考えで、成年後見人を考えて行動しました

が、うまくいかず、その時に家内が昔、福祉活動手伝いをしていた時のリーダー成瀬さんを思い出し電話すると、「NPO 成年後見湘南」に入会を勧められました。

はじめは成年後見人の勉強のつもり参加しました。最初は実家の整理等もあり、あまり熱心でなかったような気がします。はじめの被後見者は他の方の後を引き継ぐ形でした。娘と同様で自閉症で会話はありません。しかし、表情は笑みが出始め、最近、私をようやく認識してくれた様に思えます。

二人目の被後見者は申し立て当初から担当し、小田原家裁に申請時から参加することになりました。又、被後見者の実家の行事にも2度ほど参加しました。初めからコミュニケーションが取れ、身上監護も出来そうです。

現在は2カ月に一度、交互に被後見者の入所施設を訪問し、本人、施設責任者、担当職員等から話を聞き、本人の日常を観察して、身上監護をしています。同時に財産管理の一環として、施設管理の預金通帳、現金出納帳の確認もしています。年1回、まとめて家裁に報告します。

会では月に1度の定例会や、年に4回の担当者会議を開催し、被後見者の情報をメンバーで共有しています。私には参考になります。他のメンバーも同様と思います。

70才で活動を始めたので、何年間活動できるかわかりませんが、体が動く間は全力で活動するつもりです。

● 菅野 正裕さん

私がNPO 成年後見湘南と直接の関わりを持つことになったのは一昨年の夏です。平塚市内の通所施設を利用されている方で 私が計画相談を担当させていただいている方に後見人を立てる必要が生じたからです。この時、申立人は病気のため入院中で余命が限られていたこともあり証明書類等を集めるお手伝いをさせていただきました。厳しいスケジュールでの作業でしたが、選任の審判を見届けたかのようにその2か月後に申立人は亡くられました。

さて、私が関係している相談事業所を利用されている障がいの方、約100人の中で父母の両方または片方が後期高齢者となっている方は約2割、また父母の両方がすでに亡くられているか、いわゆるひとり親家庭の方は約4割おられます。この中で成年後見を利用されている方はわずか5人です。この先、5年10年を考えた時、いまご家族と暮らしている方たちの生活(居住)の場がどのように変化していくのか、またそのことを

誰が見守っていくのかを考えて準備していく認識を地域全体で共有していけたらと思います。

私のNPO 成年後見湘南での活動はやっと1年目を終えるところです。実務を行っていくときに難しさを感じることが多々ありますが、会議での皆さんの時間をかけた話し合いをお聞きして早く役に立てるようになりたいと思います。

☆☆お知らせです☆☆

次の3名の方々が、平成30年度で法人活動メンバーを卒業されました。

升水 美智子さん

和田 万里子さん

鈴木 康子さん

長い間後見担当者として、ご本人に寄り添った活動にご尽力いただき、本当にありがとうございました。これからも、一般会員として、法人を見守り続けてください。

◆ 編集後記

最近、成年後見について、新聞一面トップの記事に載ったり、一般大衆週刊誌の見出しに大きく取り上げられたりされてきた。これは、高齢者社会が成年後見の需要増加を必要としてきているように感じられる。現状は、我々NPOメンバーが金融機関で手続きをする際には、成年後見について理解されていなく、手間取ることも経験してきているが、今後、成年後見制度は世の中に急速に浸透してくると思われる。

成年後見制度が知れ渡ることにより、障がい者を対象に活動している我々NPOに対しても、多くの方々が目をむけてくるので、さらに充実した活動・運営が必要である。NPO 成年後見湘南は、設立当初から中心的な活動をされてきたメンバーが卒業され、新たなメンバーが加わり、世代交代が少しずつ進んできている。

経験豊富なメンバーでも、新しいメンバーの後見活動でも、同じようなレベルの活動ができるように、NPO 成年後見湘南の組織力を向上して、メンバーの活動を共有化・標準化し、メンバー全員が今までよりもさらに質の高い後見活動ができるように全力で活動中である。(Y.S)

